

# 「事業名：浜通り人と森のイノベーション・コースト」

## 平成30年度補助事業の実績・成果

京都大学 連携市町村：川内村

連携市町村との協定締結日：平成30年11月16日 現地拠点：双葉郡川内村早渡11-24(村役場内)

### 事業のポイント

樹木、キノコ類、溪流魚など里山資源中の放射能モニタリング(課題1)、里山-生活圏間の放射能移行調査(課題2)、生活圏に近接する里山のホットスポット撮像(課題5)に基づき、里山とともに暮らす人々の合理的な被ばく評価法を提案する(課題3)。さらに、ソーシャル・キャピタルも考慮した体と心の健康管理を提案し(課題4)、人と森と共生する生活様式を創生する。

### 今年度の活動実績

- 連携：川内村、田村市、小野町、三春町、富岡町を訪問し、本事業の基礎となった既存の活動と成果を説明し、本事業への協力を要請した。
- 課題1：川内村山林、木戸川、富岡川、井出川で、試料採取、試料中のセシウムを分析した。次年度に向け、大熊町及び熊川漁協と熊川での試料採取の打合せを行った。
- 課題2：川内村北東部の里山と農耕地が隣接する地域で、土壌・植物の試料採取を行い試料中セシウム量及び濃縮に関わる生物のDNA分析を行った。
- 課題3：川内村村民を対象に震災前後の生活行動と時間を問うアンケートを設計作成、12月に配布し、回収を進めた。回収分について解析を開始した。
- 課題4：これまでの健康データについて解析を実施した。川内村、田村市、小野町、三春町、富岡町を訪問し、保健師など医療担当者と解析結果の共有と今後の進め方を協議した。
- 課題5：計測対象地の地勢を調べた。

### 今年度の成果

- 課題1：試料中セシウムの実効半減期が物理的半減期よりも十分短いことを確認した
- 課題2：農耕地の放射能は低いレベルであるが隣接する里山にはホットスポットが存在すること、水路に里山のセシウムが移行する兆候があることを確認した。
- 課題3：震災前後で睡眠時間に大きな変化はないが、屋外滞在時間には若干の減少が見られた。
- 課題4：川内村、小野町から匿名化した健診データの提供を受け、震災後の被災地での生活習慣病の長期動向を把握した。川内村で震災前後の生活習慣の変化と糖尿病罹患の増加を確認した。
- 課題5：別途予算による計測器製作を開始した。

